

# 東京バイeSGプロジェクト 先行プロジェクト

## 次世代モビリティの取り組み



2024年6月18(火)

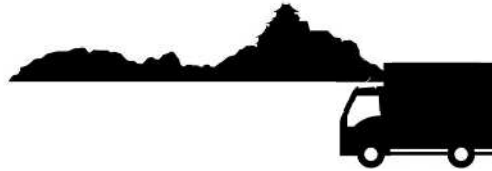
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社

# 01 本プロジェクトでめざすところ



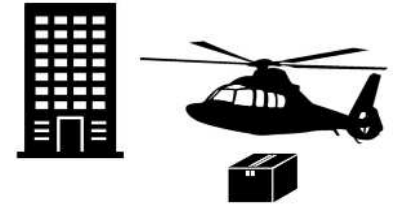
## 都市部移動の改善

- ・渋滞の経済損失年間**12兆円**  
(1人あたり年間**30時間**)
- ・**43%**の人口が都市部集中※  
(2050年予測)



## 物流問題

- ・約**70%**の企業がトラック  
ドライバー不足として認識
- ・島しょ部の交通インフラとして  
“**地域の足**”を確保



## 東京バイエリアの 安全・快適性向上

- ・職住近接のタワーマンション
- ・災害時の**移動**や**物流手段**の確保  
(海側への避難困難)

新たな輸送手段として都市型次世代モビリティを検証

引用元:国土交通省資料(<https://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-perform/h18/07.pdf>)  
 引用元:三菱総合研究所資料(<https://www.mlit.go.jp/policy/shingikai/content/001325314.pdf>)  
 引用元:国土交通省資料(<https://www.mlit.go.jp/common/001388194.pdf>)  
 引用元:東京都資料(<https://www.soumu.metro.tokyo.lg.jp/05gyousei/shingikai/tosityousonkyougikai/281111/281111tosityouson-05iken.pdf>)  
 日本政策銀行・経済産業省資料より作成

※都市部:東京・神奈川・埼玉・千葉・大阪・京都・兵庫

## 02 プロジェクトメンバー



- 全体企画・推進・統括
- 都心部における次世代モビリティの実装に向けた課題抽出
- ルート上における通信品質の調査



- 機体飛行実証の実施
- 機体認証や許認可の取得など実装に向けた機体開発の推進
- ルート検証



- モックの展示、地域イベントとの連携など
- 街づくりの取り組みとの連携を検討



- バッテリー効率、機体・各部損耗状況の確認

## 目的

## 内容

## 2022年度

- 事業化を見据えた環境調査及び各種調整
- 飛行ルート検証、関係省庁許可調整、上空通信品質(電波シミュレーション)の確認

## 2023年度

- 2024年度の飛行に向けた飛行実証・各種データの実測
- 小型無人機を用いた飛行実証・各種データの実測
- 社会受容性向上に向けた機体展示の実施

## 2024年度

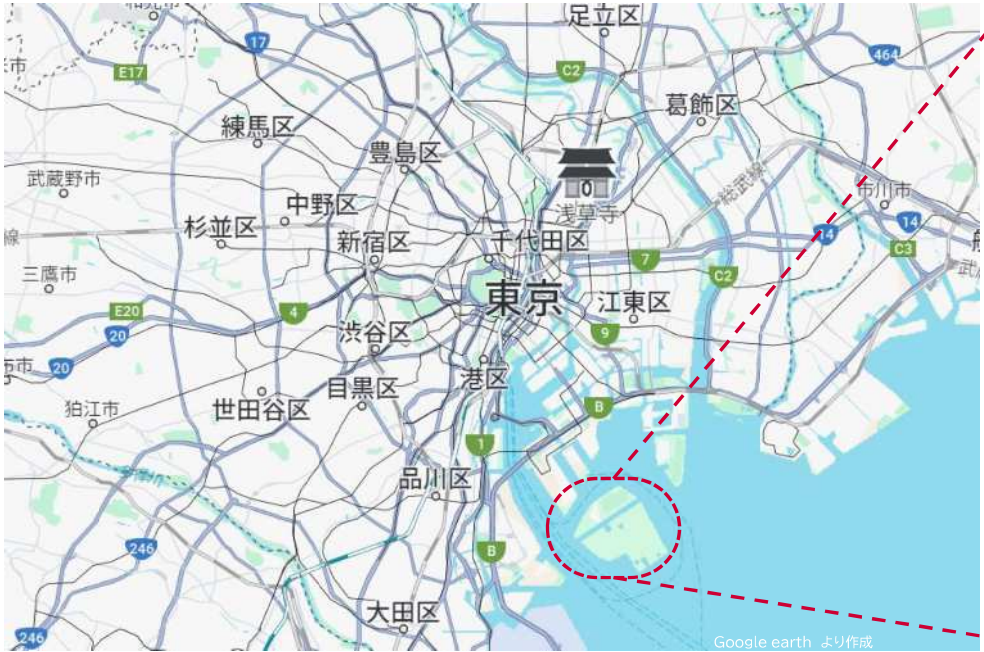
- 有人輸送を想定した飛行実証
- 有人輸送を想定し大型無人機(VoloDrone)を用いて約200kgの重量物の物流輸送を実施
- 有人輸送の飛行実証(承認が下りた場合に限る)
- 有人機(VoloCity)を用いた飛行実証

※本事業は3か年を計画しており、各事業年度で実施

# 04 飛行ルートの検証エリア

- 主に中央防波堤エリアを中心に、飛行ルートや上空の電波実測等を検証

俯瞰図



中央防波堤エリア



## 05 空飛ぶクルマに関する社会受容性の向上

- 日時:2024年3月15日(金)~16日(土)
- 場所:東京国際フォーラム B1 ロビーギャラリー
- 来場者数:約1,000名 ※2日間合計

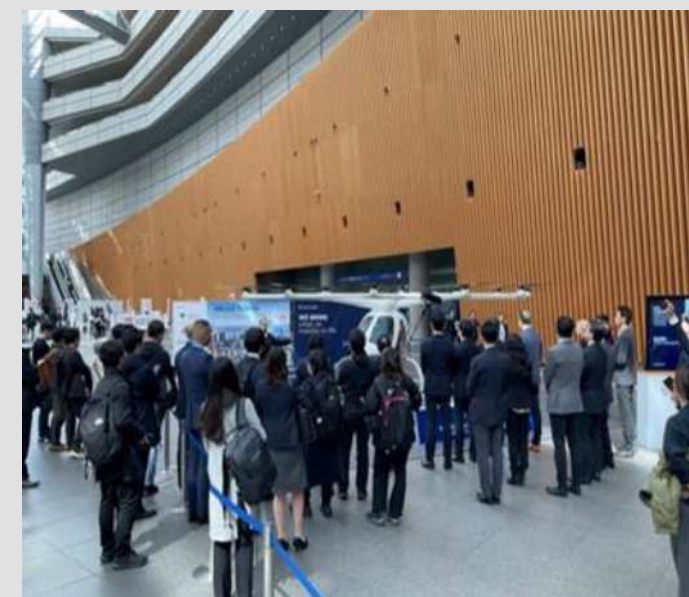
Volocopter 2X 試験機展示



オープニングセレモニー



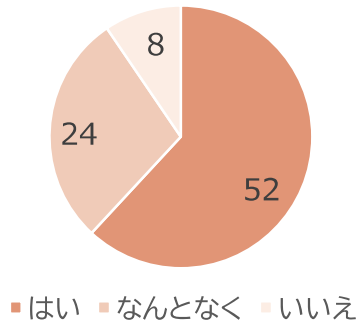
機体説明



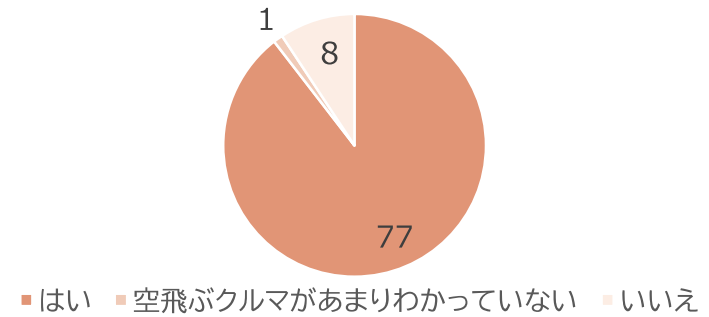
# 06 空飛ぶクルマに関するアンケート調査

● 来場者向けアンケート回答数 約84名

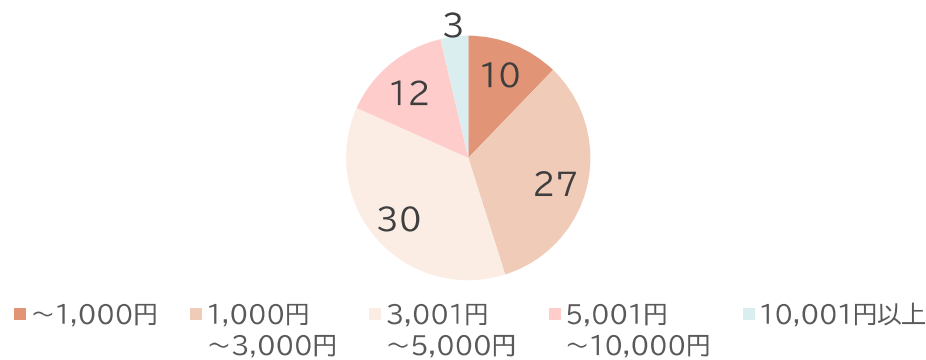
空飛ぶクルマを知っていますか？



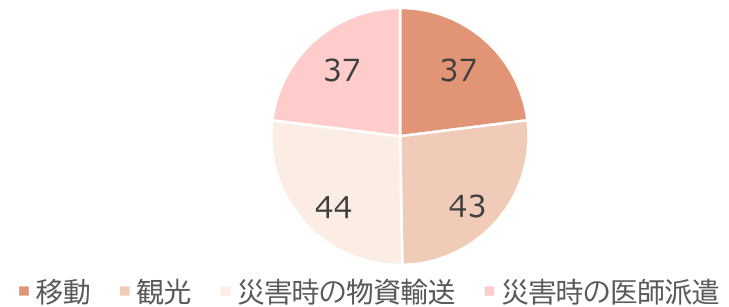
空飛ぶクルマに乗りたいと思いますか？



品川駅からお台場駅までの空飛ぶクルマの料金は？



空飛ぶクルマはどのようなユースケース？  
(複数回答)



# 07 空飛ぶクルマに関する弊社の取り組み

## 安心・安全な空飛ぶクルマやドローンの飛行に向け「空の道」を構想





